

## 南都修験道 薬師寺修験咒師本部の現在

平 松 典 晃

はじめに

法相宗大本山の薬師寺（奈良市西ノ京町）には修験道の南都修験道薬師寺修験咒師本部（以下修験咒師本部）がある。薬師寺や末寺の年中行事で柴燈大護摩供を執行するほか、大峰山入峰修行、小豆島八十八ヶ所巡錫などを行っている。

近現代における法相宗の修験道については中山薫氏の論考があり、同氏は薬師寺と興福寺に属し岡山県で活動する修験者を対象に聞き書き調査を行っている<sup>(1)</sup>。

古代において南都の僧が山林斗藪を行ったことはよく知られており、現代の奈良の法相宗寺院でも修験道の活動が行われていることは大変興味深い。現在、南都七大

寺の中で修験道がみられるのは薬師寺のみであるが、その活動はあまり知られていない。そこで筆者は令和三年三月から同四年十月にかけて修験咒師本部が関わる行事などに何い調査を行った。本稿では修験咒師本部の歴史を確認し、現代における活動について調査の結果を報告する。

### 一 概要と歴史

今日の薬師寺には学僧である本山僧と、同寺に設けられた南都修験道薬師寺修験咒師本部に属す僧尼がいる。修験咒師本部（通称咒師部）は同寺における修験道の組織で、法相宗を日本に伝えた道昭と役行者を祖としている。

修験咒師本部には現在一一〇名ほどの僧尼が属し、一部の僧は薬師寺に奉職している。また自らの寺を持っている場合もある。多くの僧尼は自営業や会社勤めなどの仕事を持ち、自己の鍛錬を目的に修験者として活動している。このような修験咒師本部に属す受戒した僧尼を末徒と呼んでいる。

修験咒師本部に属す寺院は現在、岐阜県、大阪府、和歌山県、兵庫県、広島県、香川県などにある。これらの寺は檀家を持たず、基本的に葬儀や年忌法要（法事）を担うことはない。主に祈祷を目的とした信者によって成り立っている。

新たに修験咒師本部での授戒を希望する場合は、小豆島八十八ヶ所巡錫、大峰山入峰修行、薬師寺における様々な行事に参加した上で講習を受け僧籍を取得する。毎年若干名の僧籍取得があるという。修験咒師本部に属す僧尼は、薬師寺本山僧が務める僧綱によって統括される。

今日の修験咒師本部につながる活動は明治期に始まったようである。薬師寺所蔵の『先師隆遍大和尚』（一九

二七年頃）に薬師寺の橋本隆遍師（一八七六—一九二〇）の業績として「晩近に至り法相宗南寺の祖道昭僧都の流れをくみ永く廃止となつて居りました現今の修験道を再興せられ盛に古密教を研究し兵庫、大阪、播磨、四国等に弘通せられ神戸には塔頭福寿院を移転して布教の中心となされました」と記されている。これを著したのは橋本凝胤師（一八九七—一九七八）とみられ、凝胤師は著書『仏教教理史の研究』（一九四四）の中で天台宗、真言宗以前に道昭が古密教を将来したことを指摘している。<sup>(3)</sup>

奈良・平安期に南都の僧が山中で修行したことはよく知られている。田中久夫氏は法相宗と修験道の関りについて考察する中で道昭についても述べている。同氏は『続日本紀』巻第一の文武四年（七〇〇）三月己未（十日）の条にある記述から、道昭が日本へ禅定を伝えた平であること、後に禅院寺と呼ばれ元興寺別院となった平城京の禅院に籠り修行する僧であったことを指摘し、道昭の法相宗は禅定して瞑想することが特徴であると述べている。

続いて田中氏は『日本後記』卷十二、延暦廿三年（八〇四）五月辛卯（十八）の条にある善謝の卒伝をとりあげている。そこには法相宗を学んだ善謝は六宗に通達し律師にまで出世したが、その栄華を好まず律師を辞して山中に籠り人生を終えたとある。これにより都の禪院で

瞑想するという修行方法に対し、山中に籠り瞑想する僧の姿があつたことを指摘し、山中で瞑想する修行方法が法相宗の特徴になつてきたと思われると述べている。さらにその後、賢憬や空世の坐禅練行などをとりあげ、山中で修行するという法相宗本来の修行とは異なる修行をする僧が現れていることを指摘し、修験道の成立に深くかかわっていることを推察している。<sup>(4)</sup>

中世の薬師寺においても堂衆と呼ばれる僧がいて修験道的な活動をしていたと思われるが、実態は分かっていない。近世には修験道的な性質を持つ僧の存在や活動は確認できないという。<sup>(5)</sup>

近代以降の薬師寺が修験咒師本部を設けて修験道を重視するようになる背景には、先に引用した隆遍師の業績の部分で述べられているように、道昭によつて伝えられ

た、玄奘直伝の教理を護持する法相宗南寺伝の寺であること、法相宗と同時に古密教を伝えた道昭が全国を巡錫し修行したとされることに由来する。近代に入つて道昭の活動が再確認され、薬師寺内で修験道を再興する機運が高まつたようである。<sup>(6)</sup>

今日の薬師寺における南都修験道は、明治三十年代に「法相宗修験道」として復興が始められ、「薬師寺咒師部」を設置して各地の修験者が加入した。橋本凝胤師は天台・真言以前の密教に着目し、日本に法相宗を伝えた道昭を古密教の祖と位置付けた。また凝胤師は咒師部僧綱として地方に支部を設置したり、講習会を行つたりして振興をはかった。さらに自ら小豆島八十八ヶ所巡錫や大峰山入峰修行を行い、柴燈大護摩供の際には大導師を務めるなど、今日の南都修験道修験咒師本部の基礎を作つた。<sup>(7)</sup> 現在各地にある修験咒師本部に属す末寺や僧尼は橋本凝胤師の勧めで授戒し、末寺の場合は子や孫の代になつている場合もある。今日の修験咒師本部を形成したのは凝胤師の尽力によると認識されている。

現在用いられている南都修験道薬師寺修験咒師本部と

いう名称は戦後に用いられるようになったとみられている。<sup>(8)</sup>

## 二行 事

修験咒師本部が関わる行事には修験咒師本部主催行事と、本山行事に出仕する場合、本山行事に合わせて修験咒師本部の行事が行われる場合がある。さらに薬師寺の末寺の行事に加わる場合がある。次に修験咒師本部の行事を関りの深い順に記す。表1は令和四年に予定されている修験咒師本部の関わる行事を月日順に表したものである。

### (1) 修行 (修験咒師本部主催行事)

修験咒師本部のもっとも重視する行事が、修行として実施される小豆島八十八ヶ所巡錫と大峰山入峰修行である。修行には修験咒師本部に属す僧尼に限らず本山僧も加わる。一般信者の参加も募集している。

香川・小豆島八十八ヶ所霊場巡錫(表1の⑦) 毎年五月十三日から十六日にかけて三泊四日の日程で小豆島八

十八ヶ所霊場を巡礼する。一般にも参加を募り近年は六十〜七十名程度の参加者がある。

初めて参加する者には「結縁帳」が配布される。「結縁帳」には参加回数、参加年月日を記すようになっていく。回数に応じて準先達(三回)、小先達(五回)、中先達(七回)、大先達(十回)、準教師(十五回)、教師(二十五回)、大教師(三十回)、監領(四十回)として認められる。

奈良・大峰山入峰修行(表1の⑨) 例年、七月末から八月初旬に土日の二日間を実施される。修験咒師本部に属す僧尼のほか、一般からの参加もある。男性は山上ヶ岳、女性は大日岳に登る。初日の午前一〇時に近鉄樫原神宮前駅の中央改札口前に集合しバスで洞川に向かう。午後洞川清浄大橋で柴燈大護摩供を執行した後、初めて参加した者



写真1 先達の旗

は母公堂、蟠螂の岩屋など行場を巡る。その後旅館で支度した後に龍泉寺で水行する。旅館に戻り食事、結団式、仮眠の後、翌午前一時に宿を出発し男性は山上ヶ岳、女性は大日岳に向かう。山上ヶ岳に向かう男性陣は山頂付近にある宿坊・喜蔵院で休憩する。<sup>(9)</sup>その後大峯山寺に参拝し朝日を拝したあと下山する。午前十一時ごろには榊源旅館に戻る。宿で食事の後、バスで檀原神宮前駅に向かい解散する。宿で提供される入峰前の食事は精進である。

大峰山入峰の際、薬師寺本山僧と修験咒師本部の僧は山伏の装束を着用し、袈裟は修多羅袈裟を用いる。昭和期には梵天袈裟であったという。信者は白いズボン、白い法被、輪袈裟を着用し、金剛杖を持ち、桧笠を用いる。僧俗にかかわらず数珠を持つ。

初めて大峰山入峰に参加する者には「薬師寺修験咒師本部 南都修験道 入峰結縁簿」が配布される。ここには大峰山入峰修行の結縁回数(参加回数)、結縁年月日(参加年月日)を記すようになっていて、その下には「南都修験道之印」と刻まれた証印が押される。参加回

数に応じて「準先達」(三回)、「小先達」(五回)、「中先達」(七回)、「大先達」(十回)、「正大先達」(十五回)の資格が与えられる。

先達は修験咒師本部の僧が務める。先達の金剛杖には紺地に白く染め抜かれた文字で「法相宗 薬師寺 南都修験道」記された旗(写真1)が取り付けられる。

昭和五十七年から平成九年、および令和元年には奥駈修行を行った。吉野の喜蔵院から大峯山寺に行き、そこから下北山村の前鬼まで向かう。近年は実施されていないが、条件が整えば再開する予定だという。

諸霊山への登拝 平成の前半には毎年七月頃に全国各地の霊山に登拝していた。これまでに鳥海山、日光男体山、富士山、立山、御岳山、白山、伯耆大山、剣山、石鎚山、高千穂峰などに登った。主に修験咒師本部に属す僧尼が参加し、一般への募集も行っていた。

修験咒師本部講習会(表1の⑪) 毎年九月八日から十日にかけて行われる。修験咒師本部に属す僧尼や、新に受戒を希望する者が参加する。薬師寺に泊り込み本山僧と共に朝夕の勤行に加わる。唯識や修験作法について学

ぶ。

(2) 薬師如来縁日の護摩祈祷(表1の①)〔修験咒師本部主催行事〕

毎月八日、十八日、二十八日に薬師寺境内にある不動堂内で、修験咒師本部の僧が護摩祈祷(壇護摩)を行う。八日は金堂での大般若経転読法要の後十二時から、十八日と二十八日は十一時と十三時から行われる。参拝者らが様々な願いを記した護摩木を用いる。毎月参拝する熱心な信者が多く、願い事などの相談も受ける。

(3) 柴燈大護摩供・火渉三昧〔本山・末寺などの行事に合わせて修験咒師本部が執行する行事〕

柴燈大護摩供は主に薬師寺本山や末寺の行事に合わせて執行される。薬師寺では花会式(修二会)と天武忌に行われる。また薬師寺の末寺である聖光寺(長野県茅野市)の大祭、喜光寺(奈良県奈良市)の大祭でも行われる。それぞれ柴燈大護摩供の後には参拝者も参加して火渉三昧(火渡り)が行われる。

柴燈大護摩供の際は山伏の装束を着用し、袈裟は梵天袈裟を用いる。

薬師寺・花会式(表1の⑥) 薬師寺の修二会花会式が三月下旬に行われる。令和四年は三月二十三日のお身拭いに始まり、二十五日から三十一日にかけて行事が行われた。修験咒師本部による柴燈大護摩供は二十五日に薬師寺境内の不動堂前に設けられた護摩壇で修験咒師本部による柴燈大護摩供(写真2)・火渉三昧が行われる。

薬師寺・天武忌  
万灯会(表1の⑫)  
薬師寺建立を発願した天武天皇は朱鳥元年(六八六)に九月九日崩御した。天武忌は月遅れの十月八日に行



写真2 柴燈大護摩供(令和3年3月・花会式)

なわれる。一連の行事の中で十四時から薬師寺不動堂前の護摩壇で修験咒師本部による柴燈大護摩供、火渉三昧が執行される。<sup>(10)</sup>

奈良・喜光寺大祭(表1の⑤) 奈良県奈良市にある喜

光寺(法相宗)では毎年三月二日に行基会大祭が執行される。これは天平二十一年(七四九)の二月二日に行基が喜光寺で入寂したことに因んだもので月遅れで行われている。その際、大祭の締めくくりに喜光寺境内で修験咒師本部による柴燈大護摩供が行われる。

長野・聖光寺大祭(表1の⑧) 長野県茅野市にある聖光寺(法相宗)は交通事故の撲滅を祈願するため、昭和四十五年にトヨタ自動車株式会社とその系列会社などによって創建された寺院である。大祭は毎年七月十七・十八日に行われる。十七日の午後三時から修験咒師本部による柴燈大護摩供・火渉三昧が行われる。その後交通安全故者慰霊万灯供養が行われ、十八日には交通安全祈願大法要が執行される。

香川・塩江篝山湯ノ薬師 柴燈大護摩供(塩江温泉感謝祭)(表1の⑬)

十月下旬の日曜日に香川県高松市塩江町安原上東にある篝山湯ノ薬師堂で十四時から法要が行われる。薬師寺管主が導師を務め、その背後に修験咒師本部の僧尼が座る。その後十六時から行基の湯広場で修験咒師本部による柴燈大護摩供と火渉三昧が執行される。

付近には行基が発見したと伝えられる温泉の源泉があり修験咒師本部による柴燈大護摩供は塩江温泉感謝祭の中で行われる。感謝祭には第一回から参加し令和元年には二三回を迎えた。<sup>(11)</sup> 同行事参加の経緯は、かつて香川県を中心とした地域に修験咒師本部に所属する僧が複数いたことがきっかけとなった。塩江温泉感謝祭実行委員会からの依頼を受けて参加している。

(4) 和歌山・高野山慰霊塔法要(表1の⑩) [修験咒師本部主催行事]

毎年八月二十九日に高野山奥の院にある慰霊塔で法要が行われる。慰霊塔は県道五三三線から奥の院に向かう途中にあり、昭和六十年に薬師寺有縁の供養塔として建立されたものである。修験咒師本部の僧に限らず本山僧

や信者も参列する。

(5) 薬師寺本山行事への出仕

修験咒師本部の僧は、薬師寺の本山行事に出仕することがある。修験咒師本部として出仕する行事は次の通りである。

薬師寺・越年護摩(表1の⑭) 十二月二十九日から薬師寺において修正会につながる一連の行事が始まる。大晦日には午後十一時から翌午前二時にかけて大講堂前に設けられた護摩壇(壇護摩)で修験咒師本部による越年護摩祈願が修法される。

薬師寺・新春護摩祈禱(表1の③) 元旦から十五日にかけて執行される薬師寺の修正会のなかで、修験咒師本部による新春護摩祈願(新春護摩祈願)が元旦から三日にかけて行われる。この期間、大講堂前に護摩壇(壇護摩)が設けられ、十時から十六時頃まで初祈願、厄除祈願などが行われる。

表1 南都修験道薬師寺修験咒師本部の関わる行事(令和4年の予定)

	月日	行事名	場所
①	毎月 8・18・28日	薬師如来縁日 護摩祈禱・先祖供養	薬師寺・不動堂内
②	毎月8日	薬師如来縁日 大般若経転読法要	薬師寺・金堂内
③	1月1~3日	薬師寺・新春護摩祈願	薬師寺・大講堂前
④	1月8日	薬師寺・初薬師大般若経転読法要	薬師寺・金堂内
⑤	3月2日	奈良・喜光寺大祭 柴燈大護摩供	喜光寺境内
⑥	3月25日	薬師寺・花会式 柴燈大護摩供	薬師寺・不動堂前護摩壇
⑦	5月13~16日	香川・小豆島八十八ヶ所霊場巡錫	小豆島八十八ヶ所霊場
⑧	7月17~18日	長野・聖光寺大祭 柴燈大護摩供	聖光寺境内・護摩壇 (長野県茅野市北山蓼科)
⑨	8月6~7日	奈良・大峰山入峰修行	洞川~山上ヶ岳(男性) 洞川~大日岳(女性)
⑩	8月29日	和歌山・高野山慰霊塔法要	高野山奥の院
⑪	9月8~10日	修験咒師本部講習会	薬師寺
⑫	10月8日	薬師寺・天武忌 万灯会 柴燈大護摩	薬師寺・不動堂前護摩壇
⑬	10月29~30日	香川・塩江箒山湯ノ薬師 柴燈大護摩供	箒山湯ノ薬師堂 (香川県高松市塩江町安原上東)
⑭	12月31日	薬師寺・越年護摩	薬師寺・大講堂前

薬師寺・初薬師大般若経転読法要（表1の④）元旦から十五日まで続く薬師寺の修正会の中で行われる。一月八日が初薬師であり、金堂で本山僧とともに出仕し大般若経転読法要を執行する。

薬師寺・薬師如来縁日の大般若経転読（表1の②）毎月八日には初薬師同様に、金堂で本山僧と共に大般若経転読法要を行う。その後不動堂内で修験咒師本部の僧が護摩祈祷（壇護摩）を執行する。

### 三 修行に関する聞き書き調査

令和四年の大峰山入峰修行は新型コロナウイルスの感染拡大により中止されたが、先達育成を目的とした研修として、薬師寺本山僧と修験咒師本部の僧により入峰修行が行われた。併せて少数の有志による水行が行われた。

有志の中には毎年大峰山入峰修行や小豆島八十八ヶ所巡錫に参加している信者も加わるということであった。そこで筆者は八月七日に洞川を訪れ参加者から聞き取りを行った。次にその結果を報告する。

#### （1）大峰山入峰修行

令和四年の入峰修行は先達育成のため研修として実施された。薬師寺本山僧と修験咒師本部の僧六名が八月六日から七日にかけて入峰修行を行った。今回の導師は薬師寺副住職・僧綱を務める生駒基達師であった。生駒師は小学生であった昭和四十五年頃から毎年欠かさず入峰しているという。

一行が下山する七日には毎年参加している一般信者数名が、例年入峰修行の起点となっている柵源旅館で合流し、龍泉寺（真言宗醍醐派・奈良県吉野郡天川村洞川）で水垢離を行った（写真3）。

薬師寺の一行は決まって柵源旅館に宿泊する。旅館の



写真3 龍泉寺での水垢離（令和4年8月）



写真4 榭源旅館の提灯

前には「大峯山

入峰修行宿入講

社」と書かれた

看板があり、宿

泊する講社の名

を記した木札が

掛けられる。修

験咒師本部の場

合は「奈良 薬

師寺南都修験

道」と記されている。また宿泊する講社の名を記した提

灯が軒下などに吊るされており、薬師寺の一行が宿泊す

る際には「薬師寺 南都修験道」と記された提灯が吊る

される(写真4)。さらに修験咒師本部の一行が榭源旅

館に宿泊する際には、増谷久八商店と吉野勝造商店が陀

羅尼助の販売のため榭源旅館を訪れることになってお

り、今回も両商店の方が宿を訪れた。

滋賀県大津市在住、昭和十五年生まれの間宮次雄氏は

修験咒師本部の大峰山入峰修行に毎年参加している。以

後間宮氏に伺ったことを記す。

間宮氏は昭和四十年代に初めて参加して以来六十年近

く大峰山入峰修行を続け、正大先達に任じられている。

参加のきっかけは当時の薬師寺管主であった高田好胤師

の頃に管主のお世話をしていたおばあさんに誘われたの

がきっかけであるという。間宮氏は薬師寺の大峰山入峰

修行に参加する前から、地元にある聖護院の講社に加わ

っている。

大峰山入峰修行では平成の初めまでは急斜面の岩場を

鎖で降り降りして山頂の大峯山寺にお参りしていたが、

皇太子殿下が入峰されることになり、木製の階段が整備

された。以後鎖の登山道は使用禁止となった。行場には

表行場と裏行場がある。また洞川には男山とよばれる女

人禁制の大峰山(山上ヶ岳)と女山の稲村ヶ岳(10)があり、

女山は男山より高く危険度も高いという。間宮氏は稲村

岳に登る女性らの先達を十年近く務めた。行者から一時

たりとも目を離すことができない危険なお山であるとい

う。高田好胤管主の頃、大峰山入峰修行の日が台風と重な

った。全体での入峰が中止されたが、「連続お山行」の記録が途切れるので、台風の中ではあるが誰かお山してくれと言われ間宮氏が引き受けた。忘れられない出来事であったという。

近年、大峰山入峰修行の参加者は一〇〇名以内であるが、昭和の頃には四百名ほどの参加者があった。梶源旅館だけでは収まらないため、複数の宿に分宿していた。

## (2) 小豆島八十八ヶ所巡錫

令和四年の有志による大峰山入峰修行に参加していた間宮氏は小豆島八十八ヶ所巡錫にも参加しているということで話を伺った。間宮氏は十三年ほど前(令和四年現在)から小豆島八十八ヶ所巡錫にも参加している。毎年大峰山入峰修行に参加していた縁で誘われたのがきっかけであったという。姫路駅に集合し、姫路港からフェリーで小豆島の福田港にわたる。バスで土庄町に移動し巡錫を開始する。五〇番札所を過ぎた辺りで、持参したそら豆(はじき豆)を近所の人に貰ってもらおう。そら豆をあげること、足にできたマメを取ってもらうことにな

ぞらえた習慣であるといい、すでに長年参加していた人から教わったという。

薬師寺での聞き取りによると、昭和の頃には四百名ほどの参加者があり、大阪からフェリーを借り切つて小豆島に向かつていたということである。

## 四 末寺の活動

修験咒師本部の山田裕照師が住職を務める大信寺(写

真5)の歴史や活

動について同師に聞き取りを行った。その結果を報告する。

巴山大信寺(法相宗・大阪市北区浪花町)

同寺の歴史は大正十三年に山田裕照師の曾祖母によ



写真5 大信寺

つて開設された御岳教の教会、「三巴教会」に始まる。当初は今日のJ.R大阪駅前付近にあった。その後裕照師の祖父である堯照師が密教の勉強のため全国各地を渡り歩いている際に、薬師寺の橋本凝胤師に出会い、弟子となつて南都修験道の勉強を始めた。その後堯照師は昭和五・六年頃に受戒し、当時は法相宗であつた清水寺の管長、大西良慶師から度牒を授与された。以後薬師寺の咒師部に属して活動するようになる。

昭和十六年に大阪駅前から立退きとなり現在の大阪市北区浪花町に移転した。昭和二十九年には堯照師の子である晃照師が薬師寺で受戒、さらに晃照師の子である裕照師が昭和五十九年に受戒し、代々修験咒師本部に属しながら教会を営んできた。平成二十七年には大阪市生野区今里にあつた大信寺の法人を引き継ぎ、巴山大信寺として今日に至っている。

今日の大信寺には御岳教の御嶽山を祀る祭壇（写真6）、護摩壇を伴う不動明王を祀る部屋、薬師如来を祀る部屋がある<sup>(14)</sup>。

現在の大信寺で行われている行事を次に記す。これら

は三巴教会の頃からの行事である。

一日祈祷 毎月一日の朝七時から不動明王の前で護摩祈祷を行う。

新春の初護摩 元旦に神前で鳴動釜を用いた祈祷を行う。釜を焚いた際に出る音の強弱により吉凶を占う。

節分祭 二月三日 大信寺の屋外で柴燈護摩を執行する。厄年など、希望者には特別祈祷者として御幣を授ける。

お盆 住職が十三日から十五日にかけて信者宅の仏壇にお参りする。棚経という。盂蘭盆経を読む。

お彼岸祭 春秋、住職が信者宅の仏壇にお参りする。

縁日 特定の神仏ではなく大信寺の縁日を毎月二十一



写真6 御岳山を祀る祭壇

日と定めている。不動明王の前で執行される護摩祈祷などの後、参拝者に食事を振る舞う。

これらの行事には古くからの信者を中心に近畿一円からの参拝がある。行事のほかに喘息を封じるための南瓜みなきん封じ、厄除けなどの祈祷などの依頼があるほか、名付けを頼まれることがあるという。現大信寺の前身である三巴教会を開いた裕照氏の曾祖母は神前での祝詞の後、神の託宣を告げていたという。

## おわりに

法相宗の大本山である薬師寺で、今も南都修験道薬師寺修験咒師本部を置き、修験道の活動を行っていることを知り興味を持った。古代において南都の僧が山林斗尊を行ったことはよく知られている。筆者が伝承拡大について研究している報恩大師もその一人であったとされる<sup>(15)</sup>。報恩大師は大和高取郡の子島寺を開いたとされる僧で、『子島山観覚寺縁起』によると十五歳で家を離れ、三十歳で吉野山に入り観音咒を得たとされる<sup>(16)</sup>。報恩が開いたとされる子島寺では後に真興によって真言子島流が

確立され、その道場とされた。子島流は最澄・空海以前の古密教であり、子島寺の法脈により子島流と報恩の関係が窺える。

奈良時代末に活躍した報恩と今日の薬師寺における修験を結びつけるのは困難であるが、今日も南都の法相宗寺院で修験道の活動が継続されていることは大変興味深いものであった。また現代における修験道と庶民の関りにも関心があったため、民俗学の視点で修験咒師本部の活動について調査させて頂くことにした。

調査では薬師寺副住職・修験咒師本部僧綱の生駒基達師、修験咒師本部事務局長であり、大信寺住職の山田裕照師に話者としてご協力いただいた。また薬師寺宝物管理研究所の山本潤氏には主に南都修験道と法相宗の歴史についてご教授いただいた。令和四年八月に行われた有志による大峰山入峰の際には長年大峰山入峰修行や小豆島八十八ヶ所巡錫に参加されている間宮次雄氏に話者としてご協力いただいた。末筆ではあるがこの場を借りて深謝申し上げる。

話者・調査協力

薬師寺副住職・咒師本部僧綱 生駒 基達師

薬師寺修験咒師本部事務局長・巴山大信寺住職

山田 裕照師

薬師寺宝物管理研究所

山本 潤氏

滋賀県大津市在住 間宮 次雄氏

このほかにも大勢の方々にお世話になりました。

註

(1) 中山薫『岡山の巫女と修験道』日本文教出版、一九九七年。

(2) 薬師寺所蔵『先師隆遍大和尚』六頁。奥付や著者名はない。同書には大正九年に隆遍師が遷化したこと。文末にその後七星霜を経たことが記されているため、昭和二年頃に著されたものとみられる。著者は橋本隆遍師の弟子である橋本凝胤師の可能性が高い。

(3) 橋本凝胤『仏教教理史の研究』全国書房、一九四四年、八一頁。

(4) 田中久夫「山岳修験への道―平安末期の禪定と山林抖擻とのかかわりのなかで―」『御影史学論集』二十四号、一九九九年。

(5) 薬師寺での聞き取りによる。

(6) 同前。

(7) 山田裕照「柴燈大護摩・火渉三昧と南都修験道」

『薬師寺』第二〇五号、二〇二〇年。

(8) 薬師寺での聞き取りによる。

(9) 薬師寺での聞き取りによると、かつては櫻本坊で休憩していたが、いつの頃から喜蔵院へと替わった。

(10) 薬師寺万灯会は昭和二十六年に修験咒師本部に属す僧尼(未徒)と信者によって再興された。現在は天武忌万灯会として天武天皇の御忌法要とともに万灯会が行われる。山本潤「薬師寺万灯会の由来」『薬師寺』二〇五号、二〇二〇年、四十九〜五十頁。

(11) 令和二年から三年にかけては新型コロナウイルスの流行により実施されていない。令和四年には十月三十日に第二十四回塩江温泉感謝祭が行われた。

(12) 稲村ヶ岳は大日岳の南にある。実際には大日岳に登るが、古くから大日岳のことを稲村ヶ岳と称している。

(13) その後京都清水寺は北法相宗として独立。

(14) 薬師寺に属す修験寺院であるため薬師如来を祀っているという。

(15) 拙稿、「備前・備中における仏教民俗の研究―報恩大師伝承の浸透と日蓮宗不受不施派の信仰―」帝塚山大学、博士論文、二〇二二年三月。

(16) 「子島山観覚寺縁起」鈴木学術財団『大日本仏教全書』八十五卷寺誌部三、講談社、一九七二年、二六九頁。